

第26回 作州の民芸 ものづくり展 作り手紹介

竹彫刻(竹友)

小林 博道(こばやし ひろみち)



永い年月をかけて囲炉裏の煙にいぶされて飴色に色づいた煤竹(すすだけ)を素材に昆虫や小物(箸、バターナイフ等)を作っています。

竹製郷土玩具(津山民芸社)

白石 靖(しらいし きよし)



年賀切手(S60年)の意匠に採用された事で広く知られるようになり、津山の代表的な郷土玩具と言われる様になりました。作州牛や十二支の竹細工など製作しています。

絵ことば

今井 烏石(いまい うせき)



誰しもしない、紙すき、絵を描き、字を書き、印カンを(石に篆刻)を1人でする。
からす。

磨研土器(工房 とも)

植木 智子(うえき ともこ)



土の美しさをまっすぐに引き出して、静かな光沢を纏う「磨研土器」という、古代技法の焼き物を制作しています。

陶芸(ふう津山陶芸工房)

奥田 福泰(おくだ ふくやす)



「作る・見る・使う楽しさ」を求め、新しい形や色、そして使い方を模索しながら作陶しています。カップ、お皿、花器、置物などを製作しており、オーダーも承っています。

横野和紙(上田手漉和紙工場)

上田 康正(うへだ やすまさ)



横野和紙は金箔の保護の紙「箔合紙(はくあいし)」を得意とし、その技術を活かして、いろいろな民芸紙を漉(す)いています。

和の服 YOKIKOTO

岡本 新吾(おかもと しんご)



岡山産生地には拘り、デニムを中心とした和の服を「良い物がいつも通りに当り前に」をモットーに伝統を継承しお仕立てしています。

パッチワーク(きんちやいや)

頭士 浩子(ずし ひろこ)



捨てようと思っていた服や着物を使って、素敵な作品が生まれます。布と布の組み合わせを楽しみながら、小物から大きなタペストリーまで作っています。

木工(craft Arts HIRO)

森本 博一(もりもと ひろかず)



木と手のぬくもりを形に。木の実しさと温もりを感じられる暮らしの道具、日常を彩る小物を作っています。

津山民芸協会

1953年(昭和28年)に「津山観光民芸協会」として、民芸品づくりと販売を目的に設立されました。その後、幅広い分野の作り手が加入し、1980年(昭和55年)に「津山民芸協会」と改称。民芸品や工芸品の手仕事に携わる人々が結びつき、ものづくりの会として歩んできました。

現在は、木竹工芸、陶芸、手漉き和紙、絵ことば、和の服、パッチワークなど、それぞれ異なる分野で広く活動する9名の作り手が所属し、地元の津山や岡山県南部で展示販売会やワークショップを開催。これらの活動を通して、手仕事やものづくりの魅力を伝える活動に取り組んでいます。



アルネ津山 4階 地域交流センター 多目的スペース
〒708-8520 岡山県津山市新魚町17
TEL: 0868-31-2010

主催：津山民芸協会(連絡先：0868-29-1061 奥田)

後援：岡山県・津山市・津山市観光協会・津山商工会議所・山陽新聞社・津山朝日新聞社

津山芸術文化博参加プログラム

※やむを得ない事情により会期や内容等が変更になる場合がございます